

入試年度	2025	入試方式	一般（秋季）	課程	博士前期
研究科	文学	専攻	史学	領域（分野）	日本史学

出題のねらい

- I 日本史上における時代ごとの国家体制の性格を、対外関係をふまえて理解できているかどうか、俯瞰的な・通史的な理解を問う。
- II 日本史の各時代の基礎用語を的確に説明する能力をみる。文字数の制限がかなり厳しいので、組み込むべき情報を取捨選択して最も効果的な説明文を作成できているか否かが評価のポイントとなる。
- III 古代史の基本史料である『日本書紀』の読解力、及び7世紀の仏教、都城、寺院、国際関係についての、基礎的な知識の習熟度をみる。
- IV 日本近現代史において頻出度の高い「日英同盟協約」について、文章から日英同盟と判断できるか、それぞれの文言が何を指すか理解できているか、時代背景を説明できるかを確かめることがねらいである。

I 「外国の国家制度を積極的に導入した時代」としては、隋・唐の制度を取り入れた律令国家の時代と、欧米の諸制度を導入した近代が想起できるだろう。それぞれの時代の制度導入の背景として対外的緊張があったことは、日本史を通史的に把握する上で必要な知識であり、そのうえで諸法典・制度の整備を説明することが肝要である。また、「比較的諸外国の影響を受けない時代」を、国際的環境の変化と中近世の分権的な在地勢力の存在という観点から説明できているかもポイントである。

II ①摂政・関白の違い、天皇との関係、後期摂関政治の始期についてまとめられているか。②モンゴル襲来の時期、軍の構成、日本側の対応が適切に記述できているか。③改革が行われる社会的背景、それに関わる代表的な施策について幾つか具体例を挙げて説明できているか。④条約が結ばれた年次と経緯、条約の内容についての的幅に説明できているか。

III 問1 i 諸国に詔すらく、家ごとに仏舎を作り、乃ち仏像及び経を置き、以て礼拜供養せよ、と。ii 南門に射す。天皇飛鳥寺に幸し、珍宝を以て仏に奉りて礼敬す。問2 評家。天武の寺院政策と白鳳寺院の発掘事例から。問3 飛鳥浄御原宮 問4 蘇我馬子。百濟。

IV リード文にある1902年が史料を判断する際の重要なポイントになる。それに加えて、日本と協約を締結した相手国として記されている「大不列顛国」は「大ブリテン国」であり、イギリスのことだと分かるかが問われる。問3では、史料の記述をもとに、高等学校日本史で学ぶ基礎的な内容を問うており、「甲午農民戦争（東学党の乱）」、「義和団戦争（義和団事件）」が解答である。問5および問6では時代背景や協約のその後について理解できているかを問うものである。基礎的な史料を読む力が身についているか、内容を適切に説明できるか、日本近現代史を研究する上で必要な基礎的な知識が身についているかが評価のポイントである。